

令和3年度第5回市政懇談会 会議録（要旨）

【日 時】 令和3年4月16日（金） 18時15分 ～ 19時15分
【場 所】 見初ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 見初地域づくり協議会会長 : 伊妻 孝 見初自治会連合会会長 : 梅田 寛 見初社会福祉協議会会長 : 松下 孝明 見初地区民生・児童委員協議会委員 : 榊富 清美 神原中学校 学校運営協議会委員 : 川畑 直美 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、市制施行100周年記念事業推進課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○平和荘跡地の利用について 【地域づくり協議会会長】 ・現在、地区内にスーパーがなく、高齢の方が歩いて遠くのスーパーに行っているため、市営アパート平和荘跡地の利活用について、若い世代が住めるスーパー等の店舗付マンションの誘致を要望する。 ・平和荘跡地駐車場はどこが管理しているのか知りたい。 【市長】 ・第1平和荘跡地は見初団地の駐車場として活用するものの、第2平和荘跡地の利活用については、今のところ予定はない。買い物ができる店舗というニーズがあることを認識し、今後検討していく。 ・第1平和荘跡地の見初団地への駐車場利用の管理者については、都市整備部に確認して回答する。 ・買い物について、市がスーパーと連携協定を結んでおり、商品をトラックで持ってきて販売するという取組みをしている。要望があれば市へ相談してほしい。

○自治会の後継者不足について

【自治会連合会会長】

- ・見初は、1,800 世帯で 31 の自治会があるが、高齢化により各自治会が深刻な後継者不足に直面しているため、自治会の再編を要望する。
- ・国道を挟んでひとつの自治会となっているところもあり、国道を渡ってゴミを捨てに行くという不便な状況である。

【市長】

- ・自治会の再編について、宇部市全体で考えていかないといけない。地区内の自治会再編について、市でも検討していきたいと考えている。

○災害に強い地域づくりについて

【自治会連合会会長】

- ・見初地区は、水害や土砂崩れの心配ないが、一番怖いのが地震である。
- ・小学校体育館とふれあいセンターは、建物が老朽化しており、大規模災害時には防災拠点にはならないため、建替えを要望する。
- ・防災ラジオを早急に整備してほしい。防災ラジオは FM きららから放送されると思うが、FM きららが入っている建物は耐震性がないと思われるので、FM きららを市役所新庁舎に入れてはどうか。

○未来を担う子どもたちの教育環境について

【自治会連合会会長】

- ・平成 30 年に、3 小 1 中（神原小学校・琴芝小学校・見初小学校・神原中学校）の学校統合について教育委員会へ要望していたが、10～15 年先まで時間を要すると言われ、白紙となった。統合について、検討してほしい。
- ・見初小学校体育館の建替えを要望したが、市は体育館とふれあいセンターを併設する方針のため、体育館単独での建替えはしないとされた。早急に対応をお願いしたい。

【市長】

- ・昨年 12 月、教育委員会に宇部市全体の学校区を再検討するようお願いしている。学校区再編は、子どもたちの教育環境を第一に考え、整理して進めていく。
- ・全小学校の体育館の建替えを予定しており、見初小学校は令和 5、6 年度で建替え予定。ふれあいセンターを入れた複合型にするかどうかは、地域の声を聞きながら検討していく。
- ・今年度、防災ラジオを 600 台導入する。300 台は要支援者に無償で渡し、残り 300 台は 1 台 2,000 円で販売する。防災スピーカーと併せて、いち早く避難情報が届くよう取り組んでいく。
- ・FM きららの移転先について、市役所新庁舎は難しいと思うが、旧山口宇部井筒屋跡地の今後の方向性を検討している最中なので、その中で FM きららをどこに置くかと

いう議論になってくる。

○活力ある地域づくりについて

【社会福祉協議会会長】

- ・見初地域は、少子化が加速しており、昭和 33 年に 1,300 人いた生徒が今は 100 人足らずで、学校統廃合の問題が出て寂しい思いをしている。
- ・少子化は地域の活力を奪い衰退を招くため、行政は、人口減少問題に頭を抱えていると思うが、将来の地域を担う次世代の人口を増やし、活力ある地域をつくるため、市民と手を携えて取組むことを要望する。

【市長】

- ・人口減少が止まっている市町は、産業が栄えている。仕事があるから人が集まる。そして街ができる。いいサイクルを回すには、やはり産業が一番大事であると考えている。
- ・コロナ禍で、テレワークやサテライトオフィス等、地方にいても都会の仕事ができる状況に変わった。宇部市には空港があるため、これをチャンスとして捉え、「月に数回東京に行って、そのほかはオンライン上で仕事をする」という暮らし方ができるよう、移住施策や地元の産業を強化していく施策に力を入れたい。
- ・今年度から、山口大学工学部や医学部にある研究シーズをビジネスにつなげられるよう、国と県の協力を得ながら取り組みを進めていく。

○高齢社会にやさしい地域づくりについて

【民生・児童委員協議会委員】

- ・高齢者の引きこもり対策として「ご近所ふれあいサロン」を実施しているが、新型コロナウイルス感染症対策で、ふれあいセンター1 階和室から 3 階に会場を移したため、階段を上がる元気な方の参加しかない。ふれあいセンター建替えの際は、高齢者が使いやすいように 1 階に広い部屋と和室を作してほしい。

【市長】

- ・こういった施設がいいのか、地域の声をしっかり聞きながら進めていく。

○遊休地の利活用（環境整備）について

【学校運営協議会委員】

- ・セントラル硝子引き込み線跡地は、数年前に宇部市に譲渡され、見初地域に優先的な利用打診があったが、適当な利用案も民間活用もなく、現在に至っている。
- ・年に数回草取りをしているが、草が茂るとゴミが不法投棄されたり、木の柵が壊されて車が通ったりする状況で、市民の憩いの場となるような活用を要望する。

【市長】

- ・セントラル硝子引き込み線跡地は、企業から事務所設置のニーズがあったが、宇部市からの条件が貸し付けであったため、実現できなかった。今後は、売却も視野に入れて、活用について検討していきたい。
- ・木の柵を壊して車を通してしている現状は危険なので、担当課へ確認するよう伝えておく。

